（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センターあさひ学園			
○保護者評価実施期間	令和７年　４月　２日	～	令和７年　9月　30日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	40世帯	（回答者数）	38世帯
○従業者評価実施期間	令和８年　２月　２日	～	令和８年　２月　２１日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	20名	（回答者数）	17名
○事業者向け自己評価表作成日	令和８年　２月　２８日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	家族との個別面談では、具体的な支援内容や現況の様子を文書にして作成し伝えている。	分かりやすい言葉で伝える事を意識して作成している。個別で時間が必要な場合は、別日を設け、より丁寧につたえることや家族が話しやすい雰囲気作りを心掛けている。	アセスメントの結果や家族からの聞き取りの内容等を療育に反映させていくよう、全職員で共有し取り組んでいく。
2	子どものことを十分に理解するとともに、特性等に応じた支援を提供している。	子ども一人ひとりの特徴や特性を十分に理解していきながら、提供する支援内容の検討や工夫をしていきながら、苦手としている人的・物的環境に応じられるようスモールステップで行っている。	職員間での連携を高めながら、より支援の質を高めていけるよう内部・外部の研修等に取り組んでいく。
3	自然が豊かであり、園外での活動を月1回は実施できる。	地域の様々な社会資源や従業者の方々などに協力していただきながら、園では体験できない事を提供し、ふれあう機会や園や園児等の理解につなげている。	安心・安全に社会資源に利用できるよう、関係機関との連携を強化していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	建物の老朽化への対応	危険が伴うことや整備が必要な個所に関しては、その都度修繕等を行っているが、工事費等の負担が大きく建て替えの話が進んでいかない。	法人内でも検討課題として挙げていくとともに、県等に対して、施設整備費等への補助金の拡大等を伝えている。
2	地域の保育施設や住民等との交流機会が不足している	感染症拡大までは、行事を通して高齢者等も含めた地域住民との交流機会や地域の保育園等の交流保育もあり、関わる機会もあったが、お互いが慎重になっているため実施に至っていない。	安全面を考慮しながら、行事や活動内容を検討し、地域の情報を収集したり意見を聞きながら、機械を増やしていきたい。
3			